

低気圧と前線による大雨の状況について

～『災害をもたらした気象事例』に資料を掲載しました～

令和 7 年 8 月 6 日から 8 月 12 日にかけての低気圧と前線による大雨の状況に関する資料をとりまとめました。

気象庁では、大きな被害をもたらした気象事例や社会的な関心・影響が高い気象事例について、気象の状況を取りまとめて『災害をもたらした気象事例』として、ホームページで公表しています。

令和 7 年 8 月 6 日から 8 月 12 日にかけて、日本付近に停滞した前線や前線上の低気圧の影響で、北日本から西日本にかけての広い範囲で大雨となりました。大雨となった地域では、複数の地点で 3 時間降水量や 24 時間降水量が観測史上 1 位の値を更新するなど、記録的な大雨となり、6 日から 12 日にかけての総降水量が 600 ミリを超えた地点や、平年の 8 月の月降水量の 3 倍以上となった地点がありました。

この大雨により社会的な影響が大きい被害が発生したことから、当時の大雨に関する資料をとりまとめ、『災害をもたらした気象事例』に掲載しました。

<災害をもたらした気象事例> (気象庁ホームページ)

<https://www.data.jma.go.jp/stats/data/bosai/report/index.html>

問合せ先：大気海洋部 気象リスク対策課 川崎、天澤

電話 03-6758-3900 (内線 4256、4257)